

器械運動における思考力・判断力・表現力を育む指導の工夫 ～ マット運動における学習過程の工夫と学び合い活動を通して（第5学年）～

沖縄県 石垣市立登野城小学校
教諭 田島 心気朗

I 研究の目的

児童の主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善が大きな柱となった学習指導要領の完全実施から2年が経過し、本研究会もその実現に向けた研究を進めている。昨年度までの研究実践において、思考力、判断力、表現力等を充実させるための場の設定やワークシートの工夫、指導と評価の一体化を意識した振り返りシートの工夫などによる一定の成果も見えてきた。しかし、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えることについては、実際の指導や児童の学びの足跡から見ても十分な成果を見取ることができず、今後も引き続き思考力、判断力、表現力等の育成が課題になると捉えている。特に「表現力」に関しては、「仲間に伝える」ことができるようにするための手立てとして、掲示物や学習カードの工夫、ICT機器を活用した学びや個人の成長の可視化、体育特有の表現についての理解を深めることに重点を置いてきたが、伝えるための方法や表現の見取り方等についての課題が見られた。そこで、今回の研究では、「表現力」に重点を置きながら研究を深めていく。

本単元のマット運動においては、互いに技を見せ合い、よいところや気付いたことを共有する「きらりタイム」を設定している。見本となる児童の試技をグループ、もしくは全員で確認し、気付いたことや次の活動へのポイントなどを、意見を交わして交流する思考力・判断力・表現力等を育むための軸となる時間としている。また活動場面においても、活発な交流が行えるよう、視覚的アイテムとしてのタブレット録画・再生機能の活用や、気付いたこと、技のポイントをうまく伝えるための語彙を増やす工夫、そして実際に身体を使ってのアドバイスなども相手に伝える重要な表現の一部として捉え、指導の充実を図る。

II 研究仮説

課題を解決するために、仲間に伝える場において、タブレットの資料や撮影機能を用いて技のポイントを確認することで、自己の能力に適した課題を見つけ、その課題の解決のための活動を選んだり、考えたことを仲間に伝えたりすることができるであろう。

III 研究内容

1 学習過程の工夫について

本単元における学習過程の工夫については、単元前半で基本の技の習得を丁寧に行い、児童の習熟を見取りながら発展技につなげていき、単元終末では発表会を行う。単元のゴールを明確にすることで、ゴールに向かって見通しをもちながら授業を進めていけるようにする。

鉄棒運動や跳び箱運動の器械運動でも同様の学習過程を実施することで、自己の能力に適した課題に対する児童の学びが、次の単元や領域につながり、より深い学びにつながると考える。

2 学び合い活動の工夫について

学び合い活動の工夫については、年間を通して互いの動きを確認し合い、よいところや気付いたことを共有する「きらりタイム」の設定をし、その習熟状況を以下の表のように進めていく。きらりタイムの習熟状況は、教師主導型から児童主体型に重点を置いた授業実践を進めていく。

本単元でも同様に、単元前半では、教師が主導しながら話し合いの視点や、どの部分に注目して見るといいのかといったポイントを提示し進めていくところから始め、少しずつ児童同士で、自己の能力に適した課題に応じたアドバイスをしていく姿を目指していく。

習熟状況の目安として				
レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
教師がすべて 主導する。	教師がファシリテ ーションをしながら児 童と進めていく。	児童の気付きや感じ たことを教師がつか ないでいく。	ほぼ児童のみで進める。教 師は困っている個人（グル ープ）へのサポート	児童のみで話し合い を進めていく。
教師100% 児童0%	教師80% 児童20%	教師50% 児童50%	教師20% 児童80%	教師0% 児童100%

IV 単元の目標

【知識及び技能】	【思考力, 判断力, 表現力等】	【学びに向かう力, 人間性等】
<p>回転系や技巧系の基本的な技の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した技を安定して行うことができるようにする。</p> <p>発展技に取り組むとともに、技を繰り返したり、組み合わせたりすることができるようにする。</p>	<p>自己の能力に適した課題を見つけ、その課題の解決のための活動を選んだり、考えたことを仲間に伝えたりすることができるようにする。</p>	<p>運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。</p>

V 「する、みる、支える、知る」を関連付けた学習活動について

	する	みる	支える	知る
知識・技能	マット運動の特性や行い方を理解し、実践する。	マット運動の特性や行い方を見つける。	運動の特性や行い方を共有する。	マット運動の特性や行い方を知る。
思考・判断・表現	課題の解決のための練習や、場を選んで運動に取り組む。	自分や仲間の課題を見つける。	仲間と協力し合い、アドバイスし合ったり、励まし合ったりする。	自分のできていることや課題を知る。

VI 運動の特性

1 一般的特性

マット運動は、「回転」「支持」などの運動で構成され、マットの上でいろいろな回転技や倒立技に挑戦し、できるようになった楽しさや喜びを感じることができる運動である。また、できる技を繰り返したり組み合わせたりして、上手に回ることなどにも挑戦して楽しめ、自己の能力に適した技や発展技に挑戦したりして、技を身に付けたときに楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

2 児童から見た特性

マット運動の面白さは、背中をマットに接して回転したり、倒立姿勢で回転したりして立つことができるかどうかである。また、できない技ができるようになったり、できるようになるために試行錯誤したりしながら、課題を克服する面白さがある。高学年では、倒立系の技や回転系の発展技など、児童が挑戦できる技の幅が広がるため、普段経験しない動きを経験することで様々な運動感覚を身に付けることができる。

VII 教材観

本教材は、学習指導要領において「B 器械運動 ア マット運動」に位置付けられている。知識及び技能において「その行い方を知るとともに、自己の能力に適した回転系（前転など）や技巧系（壁倒立など）の基本的な技をすること。また、基本的な技に十分に取り組んだ上で、それらの発展技に取り組んだり、技を繰り返したりすること。」をねらいとしている。

マット運動は、「できる」「できない」がはっきりする教材と考えられ、体の大きさや筋力、基礎感覚などが大きな要因になることが考えられる。そのため、児童が技を身に付ける楽しさや喜びを味わうことができるような課題を見つけ、その課題解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることができるようにすることが重要である。技の習得を目指す中で、知識や技能だけではなく、思考力、判断力、表現力等を育みやすい単元である。

VIII 児童の実態

本学級の児童は、男女とも仲が良く、協力し合うことのできる児童が多い。また、授業の様子やアンケート項目①の結果からも「体育が楽しい」「授業が楽しい」「運動が好き」と感じている児童が多い。

本領域で取り組む運動については、アンケート項目⑨「マット運動は好きですか？苦手ですか？」では62%の児童が楽しみに感じているが、38%の児童は苦手意識を持っていることが分かる。理由としては、「前転や後転が苦手だから」「マットをすると頭がいたくなるから」という理由であった。

アンケート項目⑦「体育で仲間に教えたり、教えてもらったりしたことがありますか？」では、93%の児童が肯定的に感じていることが分かる。普段の授業のグループ活動やペア学習においても積極的な意見交流や学び合いをしており、体育の授業でも同様に「見たことや考えたことを伝える」ことを意識しているようである。本単元のテーマに沿って、思考・判断したことを仲間に伝え合うことで、苦手意識がある児童への助言や、技の習得へ向けた話し合いなどにつなげていきたい。単元を通して、技の習得だけでなく、仲間と学んだこと、感じたこと、見て分かったことを伝え合いながら活動をすることで、マット運動の楽しさや喜びを感じることのできるようにしていきたい。

アンケート項目	肯定的	否定的
① 体育の授業は好きですか？	87%	13%
② 体育の授業は楽しいですか？	80%	20%
③ 運動やスポーツ（体を動かすこと）は好きですか？	79%	21%
④ 体力に自信はありますか？	58%	42%
⑤ 「めあて」をもって体育の授業に取り組んでいますか？	93%	7%
⑥ 体育の授業では、「めあて」を意識した「振り返り」をしていますか？	85%	15%
⑦ 体育で仲間に教えたり、教えてもらったりしたことがありますか？	93%	7%
⑧ 体育の授業で、動きのコツやポイントを考えて練習やゲームをしていますか？	86%	14%
⑨ マット運動は好きですか？苦手ですか？	68%	32%
⑩ マット運動は楽しみですか？	62%	38%

IX 本単元における指導の手立て

1 運動量確保のための工夫

(1) 準備運動

授業での運動量を確保するために、児童の準備ができ次第開始する。また運動領域の種類に合わせて手の平や手首のストレッチを入れたり、下半身のストレッチを組み込んだりしている。

(2) コーディネーション運動

毎時間の始めに、動物歩きや、ゆりかご、壁逆立ちなどを通して、腕支持感覚や逆さ感覚、回転感覚などを養うようにする。授業の始めに、グループごとに場をローテーションしながら行う。

2 学び合い活動の工夫 きらりタイム

(1) きらりタイム

ペアやグループで仲間の試技を見たり、ICT機器を用いて撮影したりして、よいところや気付いたこと、学んだことを共有する活動である。仲間との関わりの中で、技のポイントを学び合い伝え合うことで、技能の向上を図る。授業では、きらりタイムの視点を児童に提示しておくことで、伝え合う活動を充実させていく。



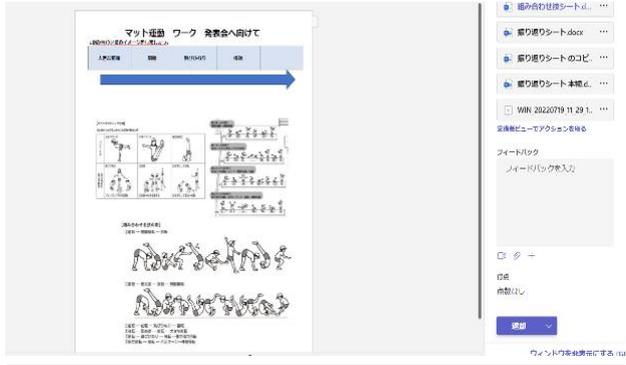
3 学びを自覚させるための工夫

(1) 学習カード

学習カードは、エクセルシートで作成し、学級の Teams を用いて児童のタブレットに配布した。振り返りの時間にタブレットを開き、タイピング入力をさせる。振り返りには、取り組んだ技、意識したポイント、できるようになったことなど、授業で学んだことを書かせる。そして、振り返りを基に、次時に向けて取り組みたいことを意識させ、学びを自覚させていく。また、毎時間の自己評価を観点別に点数化し、個人の成長を可視化することで、指導と評価の一体化を図りながら授業改善を行う。

繰り返し技・組み合わせ技については、技の構成を記録するワークシートを用意し、学級の Teams で配布した。技の構成についても全体で共有し、それぞれが見通しをもって活動していけるようにする。

項目	児童(1)	児童(2)	児童(3)	児童(4)	児童(5)	児童(6)	児童(7)	児童(8)	児童(9)	児童(10)	児童(11)	児童(12)
① 立ち姿勢の保持	2	3	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
② 姿勢の安定性	3	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3
③ 姿勢の安定性	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
④ 姿勢の安定性	2	2	3	2	2	2	2	2	3	3	3	3
⑤ 姿勢の安定性	1	2	3	1	1	2	2	2	2	2	2	2
⑥ 姿勢の安定性	2	1	3	1	2	3	2	2	2	2	2	2
⑦ 姿勢の安定性	3	2	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3
⑧ 姿勢の安定性	2	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3	3
⑨ 姿勢の安定性	2	1	3	1	2	3	2	3	2	3	2	3
⑩ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑪ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑫ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑬ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑭ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑮ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑯ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑰ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑱ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑲ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
⑳ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉑ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉒ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉓ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉔ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉕ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉖ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉗ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉘ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉙ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉚ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉛ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉜ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉝ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉞ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㉟ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊱ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊲ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊳ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊴ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊵ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊶ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊷ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊸ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊹ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊺ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊻ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊼ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊽ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊾ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
㊿ 姿勢の安定性	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2



Excel で作成した学習カード
 ➡ Teams のファイルに配布する。

組み合わせ技の構成を記録するワークシート
 ➡ Teams の課題機能を用いてで配布する。

(2) ICT 機器

電子黒板は、教師用タブレットを同期させる。全体に指示を出したり、撮影した動画を確認したりするために活用する。学級の Teams に見本動画や、技のポイントが示された図を配布し、児童それぞれが見ることができるようになる。解決や、仲間に技のポイントを伝え合う参考資料として活用を目指す。数台のタブレットで自分の技の出来栄を振り返り、より美しく完成度の高い技を目指すための場を設ける。自己に適した課題を捉えるツールとして、自分自身を客観的に見るための手立てとして有効であると考えている。



技の見本動画や、練習方法の動画を Microsoft sway の機能を用いて編集し Teams にて配布した。児童は、タブレットを使える時間や、授業の時間に見ることができる。

4 掲示物・場の工夫について

(1) 掲示物の工夫

児童が主体的に自己の能力に適した課題を見つけ、その課題を克服するために試行錯誤する過程をサポートするツールとして掲示物の工夫を行う。各マットで練習する技を固定化し、同じ技を練習する児童同士が掲示物を基にアドバイスができるようにする。また、掲示物については、光文書院の副読本を拡大掲示し、ポイントを明確化する。

(2) 場の工夫

2枚組のマットを6組用意し、各グループのマットとしてコーディネーション運動や一斉指導を行う。授業後半では、倒立系、回転系の技で大きく分け、柔軟に場を選択できるようにする。また、それぞれの場の人数や児童が取り組んでいる技に応じて場の変更を行うなど、児童が思考・判断しやすいように工夫する。組み合わせ技に取り組む際には、実技の場、練習の場、きりりタイムの場を設定し、仲間との伝え合いの中で、組み合わせ技の出来栄を高められるように授業を展開していく。

× 評価基準について

1 内容のまとまりごとの評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○回転系や技巧系の基本的な技の行い方を知っている。</p> <p>○自己の能力に適した技を大きな動きですることができる。</p> <p>○発展技に取り組むとともに、技を繰り返したり、組み合わせたりすることができる。</p>	<p>○自己の能力に適した課題を見つけている。</p> <p>○課題の解決のための活動を選んだり、自己や仲間の考えたことを仲間に伝えたりしている。</p>	<p>○マット運動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>○約束を守り、仲間と助け合って運動をしている。</p> <p>○場や器械・器具の安全に気を付けている。</p>

2 単元の評価規準

	単元の評価規準に即した児童の具体的な姿		
	十分満足できる姿A	おおむね満足B	努力を要する児童への手立て
知識・技能	①マット運動の行い方（ポイント）について詳しく言ったり書いたりしている。	①マット運動の行い方（ポイント）について言ったり書いたりしている。	①掲示物やタブレット上の資料等でマット運動のポイントが分かるように促す。
	②発展技を安定してすることができる。	②自己の能力に適した技を安定してすることができる。	②仲間の動きを参考に、うまくできるためのポイントを示す。
	③繰り返し技、組み合わせ技を安定してすることができる。	③技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。	③仲間の動きを参考に、うまくできるためのポイントを示す。
思考・判断・表現	①自己の能力に適した課題を具体的な理由を基に選んだり、考えたりしている。	①自己の能力に適した課題を見つけようとしている。	①仲間の意見を参考にしたり、仲間にアドバイスをもらったりさせる。
	②問題の解決のための方法を具体的な理由を基に選んだり、考えたりしている。	②課題の解決のための方法を選んだり考えたりしようとしている。	②仲間の意見を参考にさせたり、掲示物とICTによる自身の動きの振り返りを確認させたりする。
	③選んだり考えたりしたことを仲間に具体的に伝えている。	③選んだり考えたりしたことを仲間に伝えている。	③掲示物やタブレット上の資料、仲間の動きを参考に、動きのポイントを確認させ、動き方の視点を持たせる。
主体的に学習に取り組む態度	①仲間意識をもって、練習やゲームに積極的に取り組もうとしている。	①マット運動に積極的に取り組もうとしている。	①個人のできたことや伸びたところを称賛する。また、仲間のよさに目を向けさせ、見本とする。
	②規則を守り、積極的に誰とでも仲よく運動しようとしている。	②規則を守り、誰とでも仲よくしようとしている。	②楽しく学習するためには規則を守ることや仲間と助け合うことが必要であることを全体で確認する。
	③積極的に仲間の考えや取り組みを認めたり、取り入れたりしながら運動している。	③仲間の考えや取り組みを認めたりしながら運動している。	③楽しく学習するためには勝敗を受け入れたり、仲間の考えを認めたりすることが必要であることを全体で確認する。
	④積極的に使用する用具を片付けたり、場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。	④使用する用具を片付けたり、場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。	④一人ひとりが協力することで、楽しく学習できることを理解させる。

XI 本時の指導

(1) 本時の目標(7/9)

自己や仲間の課題に対して、改善すべきポイントを考えたり、伝えたりすることができるようにする。

(2) 授業仮説

課題を解決するために仲間に伝え合う場において、タブレットの資料や撮影機能を用いて技のポイントを確認することで、その課題の解決のための活動を選んだり、考えたことを仲間に伝えたりすることができるであろう。

(3) 準備物

・マット・ロイター板・掲示物・ホワイトボード・タブレット・電子黒板

(4) 展開

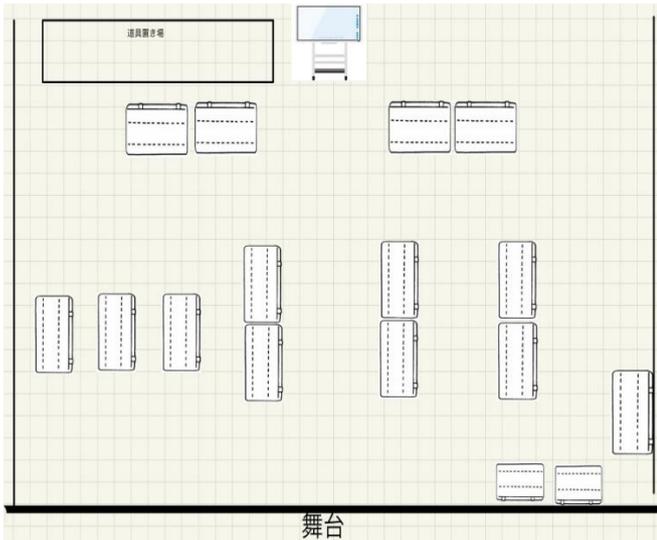
	主な学習活動	○指導	★評価
	準備運動		
導入	1. コーディネーション運動	○めあて1に必要な類似運動に取り組みさせる。 ○前時の学習の振り返りをする。	
展開	2. 活動①(10分) 【パワーアップタイム】 ◇めあて1の解決に向けて取り組む。 技の例 跳び前転、伸膝後転、頭倒立 壁倒立、倒立前転、側方倒立回転 ・自分に合った場を選択する。 ・きらりタイムを適宜設定する。 きらりタイム 良いところや気付いたこと、学んだことを共有する	めあて1:技の完成度を上げよう。 ○同系統の技でグループを組み、仲間同士で練習に取り組みさせる。 ○練習の仕方の例を参考にしたり、タブレットで自分の動きを確認したりさせる。	
	3. 活動②(15分) 【チャレンジタイム】 ◇めあて1の解決に向けて取り組む。 ・場は各グループに2枚ずつ試技用のマットを割り当てる。練習ゾーンも用意する。 ・自分にあった技を練習する。 ・きらりタイムを適時設定する。	めあて2:繰り返し技や、連続技に挑戦しよう。 ○同じ場にいる仲間と、組み合わせ技の完成度や構成を確認し、よいところや気付いたことを交流させる。 ○場合に応じて練習ゾーンで、課題解決に取り組みさせる。 ○共有したことを基に、グループで練習をさせる。 ★評価:課題の解決のための方法を選んだり、考えたことを仲間に伝えたりしている。【思考・判断・表現】	
まとめ	4. 振り返り(6分) ・振り返りをタブレットで行う。 5. まとめ(3分) ・学習のまとめと次時の見通しを持つ。	○発見したこと、アドバイスを受けたことなどを想起させ、次のめあてにつながるような振り返りにさせる。 ○児童の振り返りや発表、活動の様子や、見本児童の動画を基にポイントを共有する。	

(5) 評価

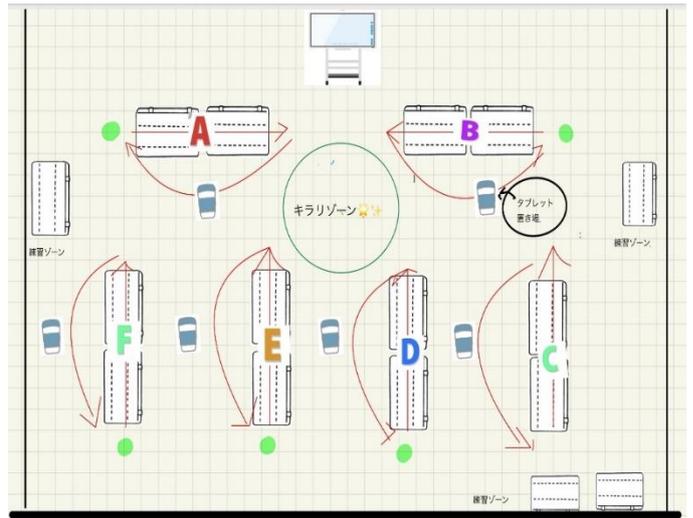
課題の解決のための方法を選んだり、考えたことを仲間に伝えたりしている。【思考・判断・表現】

(6) 場の設定

○パワーアップタイム



○チャレンジタイム



(7) 児童の振り返り

	A	B	C	D	E
2		児童1	児童2	児童3	児童4
第2時目		しんしつ後転のちやちやがうまくできなかったから次は、着地をうまく決めたい	倒立系の練習が出来た次はできるようにしたいです。意識したいことは足などをのばすことです	倒立、三点倒立などの技に取り組めた。次は、倒立、三点倒立などを今日と同じ取り組み、極めたい。	同じ場所の人と考えを交流して、楽しくできました。とび前転のこつが少しわかりました。
3					
先生より	技を美しく見せるためのポイントに気をつけています!!	自分の技をよくするためのポイントをおさえています。素晴らしい!!	少しずつ技を身につけていきましょう。技のポイントと意識して頑張ってください!!		考えを交流しているこのころは、キラリタイムを生かしていますね。すばらしい!!
4					
第3時目	今までのしんしつ後転は、勢いあまりなかったから回りずらかったけど今日〇〇さんに教えてもらったか次からは、勢いをつけて回りたいです。	倒立が長くできた次は倒立前転のコツをつかみたいですね。意識したことは倒立前転するとき後頭部からつくように意識しました。	前よりもちょっとできるようになったので良かった明日は、完璧にしたい。	かんたんな前転を今日は、復習してひきつけるができていないとかがふかめることができました。	
5					
先生より	友達と学び合いながら練習していますね!! ナイスです!!	技のポイントをたくさん知って練習に生かしていますね!! すばらしい!!	どんなことを意識したらできるようになるかな? 前向きに練習することができていますね!!	前回の練習も振り返りながら生かそうとしていますね!! 素晴らしい!!	
6					

Microsoft Excel で振り返りシートを作成

し、Teams のファイルに配布した。児童が個別のシートに振り返りを記入すると、このように一覧で確認することができる。教師は一覧用のシートに、Excel の描写機能を用いてコメントを手書きで返すことができる。児童の学習状況を確認し、技のポイントやきりりタイムでの学び合い活動を価値付けながら、コメントを返していった。

第7時の振り返り

足をきれいに伸ばしてきれいに着地したい。大きく回転して速く立ち上がる。

今日〇〇さんにしんしつ後転の手の置き方を教えてもらいました。これを発表会に生かしたいです。

倒立前転ができなくて迷っていたけど〇〇さんが一緒に見に行こうと誘ってくれてたのでいいなと思いました

皆の動画を撮ったりしながら、情報を共有できたので良かったです!! 【たのしかった!!】

グループでいろんなことを分かり合えたりをできたので楽しかったです。次は、組み合わせ技の発表をがんばりたいです。

ロングアートで大切なことは、勢いと手の形、しっかりひねること（ほかにもある。）

今日もしんしつ後転ができて良かったです。みんなに教えることが難しかったです。私も自分でつなぎ技ができているか、調べることができました。みんなにも「これは、こうやるよ。」と教えることができたし、リーダーにもしんしつ後転のやり方を教えられて良かったです。

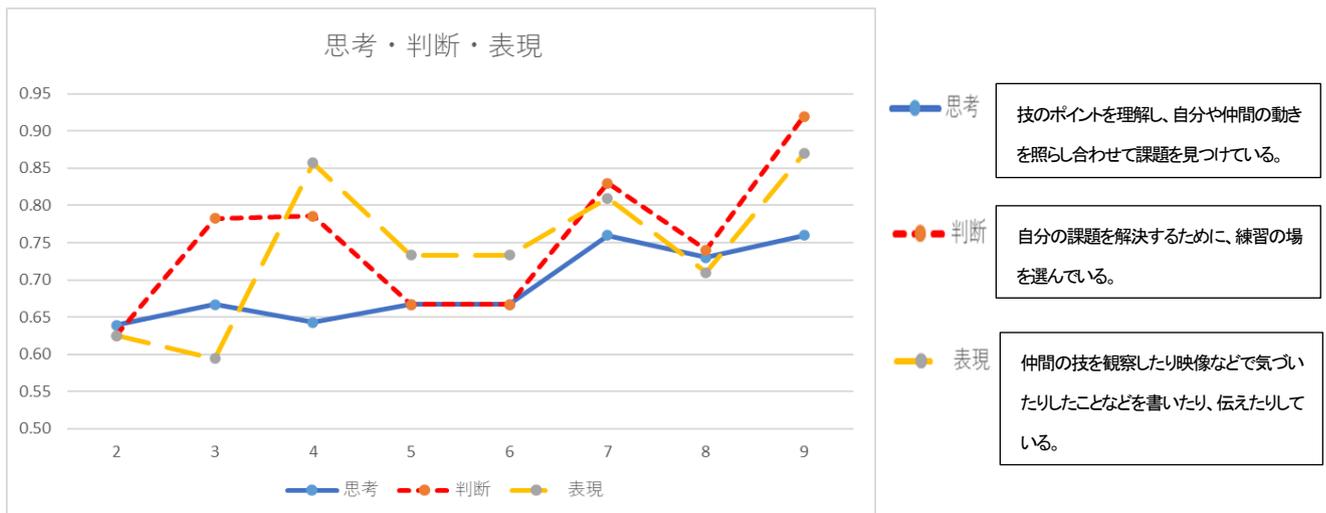
倒立をするときは、足を勢いよく振り上げることがわかりました。本番の発表会の時は、ちゃんと180度振り上げられることができるようにしたいです。〇〇さんと〇〇さん 水平立ちのれんしゅうをしたり、新しい技を考えることの挑戦していたのでいいなと思いました。👍

詳細 ぶたいのかべをつかって足をかけ、90度できる練習をしていた。〇〇さんが「〇〇技」をほかの人（グループの人）と開発して成功することができていたこと

XII 研究結果

(1) 成果

- ① タブレットの資料や撮影機能を用いて技のポイントを確認することで、その課題の解決のための活動を選んだり、考えたことを仲間に伝えたりすることができた。
- ② 学び合い活動の工夫では、仲間の試技を見たり、タブレットを用いて撮影したりして、よいところや気付いたこと、学んだことを共有する場面（きらりタイム）を設定することで、思考力、判断力、表現力等の高まりが見られた。
- ③ 学習過程において、単元前半は技のポイントなどを児童と共に確認し合いながら進めていくことで、体育特有の表現方法を用いて伝え合う場面が見られた。
- ④ 児童の思考力、判断力、表現力等の変容を振り返りシートから客観的に見取ることで、次時の指導に活かしていくことができた。



・エクセルシートで記録した児童の振り返りを集計して点数化し、思考力、判断力、表現力それぞれについてまとめた。上のグラフは、第2時から第9時までの移り変わりを示している。どの項目においても、数値の上下を繰り返しながら、最終的に高まったことが分かった。きらりタイムを焦点化した第4時では、表現の仕方の例（何を伝えるか、どこを見てあげるか）などを具体的に知ったことによって大きく高まったと考察できる。きらりタイムを活発化させ、児童にも実感が伴うようにするためには、表現の仕方の例を教師が示し、活動の中で価値づけていくことが大切になると考える。

(2) 課題

- ① 体育特有の表現力を高めるために不可欠な知識を習得したり、共有したりする時間の確保
- ② 思考力、判断力、表現力等と、知識・技能や主体的に学習に取り組む態度とのつながりを意識した授業作り

《参考文献》

- ・文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編 平成29年7月
- ・公文書院 『体育の学習5年』 沖縄県小学校体育研究会 編著
- ・白旗和也 『小学校「体育授業」の基本』 東洋館出版社
- ・『体育科教育6月号』 大修館書店
- ・第42回 沖縄県学校体育研究発表大会 島尻大会 研究紀要 令和3年10月

《補足資料》



授業の様子を載せてあります。ご覧ください。

「八重山地区小体研ホームページ」→「メニュー」→「公開授業の様子」